

ほんのちょっとしたこと

日曜日に散髪に行きました。

私が中学2年生の時に開業した近所の床屋さんですが、行くたびに「先生も薄くなったねえ」と平気で客に向かって言います。私だって中学生のころはこんな髪ではなかったのです。こんな床屋さんですが、先日あることに気づきました。

顔を剃る前にかみそりをお湯の容器にしばらくつけるのです。何のためにするのか聞きました。「お客さんの顔にかみそりがあたった時に冷たく感じないため」なんだそうです。言われてみればその通りで、頬ほおにあたったかみそりの刃が温かく感じます。「どこの床屋でもそんな風にやっているのか」と聞きましたが、「よその床屋は知らない」とそっけない答えが返ってきました。

そんな会話をしながら、鏡に映った壁掛けの時計に目をやりました。11時40分でした。床屋の主人に「髪が薄くなっても、かかる時間や料金が変わらないというのは不条理ではないか」という不条理な文句をつけながらあれっと思ったことがあります。

鏡に映った時計なのにごく自然に11時40分と読めたのです。鏡に映った時計は針の位置だけで見れば12時20分に見えるはずなのです。ふり返って実際に壁に掛けてある時計を見ました。何とその時計は文字盤が全く裏返しになっているのです。つまり鏡で見る専用の時計なのです。「この時計はいつから掛けてあるか」と聞きました。主人は「もう5年にもなるかなあ」との答え。普段は全く愛想のない主人ですが押しつけのない気配りとやさしさに頭が下がりました。

題は忘れましたが、こんな落語の一節を思い出しました。

男がひげを剃ってもらいに床屋へやってきました。愛想のいい主人がわかりましたと上機嫌で客の顔にタオルをのせました。

客「あちちっ、おいこのタオル熱いじゃねえか。」

床屋の主人「いえ、私だって熱くて持っていられなかったもんで。」